

今月は読解問題の解き方について説明します。

文章の内容を正しく理解できたかどうかをたずねる読解問題には、選択肢の中から正しいものを選んで答えるもの、文中から解答の箇所をぬき出して答えるもの、記述式で答えるものの、三つの形式があります。この三つの形式には、それぞれ解答を導くために知っておくべき技法があります。今回は、どの設問形式であっても共通して行う、読解問題を解く上での基本となる作業について説明していきます。

読解問題を解く上で一番大切なことは、出題者が何を答えさせたいのかを読み取ることです。設問の意図を正しく理解できていなければ、正しい答えにはたどり着けません。ですから、設問文はじっくりと、分析しながら読むように心がけましょう。たとえば、傍線部の内容を理解できているかどうかを説明させる問題では、傍線部中のどの部分の説明が求められているかを意識できているかが、問題を正しく解くカギになります。理由を聞いている問題では、何の理由が聞かれているかを意識して問題を解くようにしなければ、間違えた答えを選んだり、書いたりしてしまいます。

設問の意図が正しく理解できたら、解答の手がかりとなる部分を文中から探します。ここからは、この解答の根拠をおさえるための方法を説明していきたいと思います。

読解問題の大半は文中に傍線が引かれていて、その傍線部の内容に対して設問が作られています。このような傍線が引かれている問題を解くときに最初に行ってほしいのは、傍線を含む一文を読むことです。そして、次の4つの方法で解答の根拠を探るようにします。

①傍線を含む一文の中に、指示語、接続語が使われていないかをチェックする。

傍線を含む一文の中に指示語があれば、その指示語が指している内容を読み取ることで、解答が得られるパターンが大半です。傍線を含む一文の、次の一文の初めに指示語があるパターンもあり、これは傍線の次の一文が解答の手がかりとなります。また、接続語がある場合は、その接続語の働きに注目すると答えがわかるものがほとんどです。たとえば、傍線を含む一文が、「しかし」という逆接の接続詞で始まっているのであれば、傍線部とその前の一文とが反対の関係になっているので、対比関係に留意して設問を解きます。

②傍線を含む一文の、文構造を考える。

主語に傍線が引かれているときは述語の部分が、述語に傍線が引かれているときは主語の部分が、解答の手がかりになることがよくあります。また、傍線部が修飾している言葉や、傍線部を修飾している言葉に注目することも大切です。

③傍線を含む一文の中に使われている言葉の意味に着目する。

これは傍線部の内容を正しく理解できているかどうかを問う問題でよく使う技です。傍

線を含む一文の中で使われている言葉の辞書的意味を考え、それが今解いている問題文ではどういうことに当たるのか、照合させるようにします。

④傍線を含む一文に含まれるキーワードに着目し、そのキーワードが用いられている文中の別の箇所を探す。

傍線の前後に解答の手がかりがない場合、傍線部中のキーワードに注目し、同じ言葉が使われている文中の別の箇所を探すようにします。そうすると、傍線の内容を言いかえて説明している部分を見つけることができます。その部分をふまえて解答を考えるようにします。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第12回

今回は具体化説明の問題を中心に扱います。傍線部のどの表現をわかりやすく言いかえていくのかを意識して、解答を作成するように心がけてください。傍線部中の言葉の意味、ニュアンスをよく考えることが問題を解くカギになることが多いことも押えておきましょう。

第13回

今回は理由説明の問題を中心に扱います。本文を読むとき、因果関係に気をつけるようにしましょう。また、筆者の主張に対して、その主張を導くための理由を意識しておく、設問が解きやすくなります。また、意味段落の切れ目に注目し、傍線を含む文脈の中から理由が書かれている部分をさがしていくことが、答えの手がかりを見つけるときのコツになります。

第14回

今回は洛星中の入試問題研究を行います。60分で問題を解き、解説動画を見るようにしてください。はじめに問題全体を見て、どの問題から解き始めるか、戦略を立てましょう。洛星中の記述問題では、字数制限のない長文記述が多く出題されます。解答欄に比べて自分の答案が短いときは、何らかの要素を書きもらしています。解答欄の大きさを手がかりにして、どこまで書かなければいけないかを考えるようにすることが大切です。

第15回

心情説明の3回目になります。「きっかけ」「心情」「行動・動作」の関係をふまえ、解答を作成するように心がけてください。傍線部の前後に会話文があるときは、その会話の内容を手がかりにして考えると、解答が導きやすくなります。

6 灘 WEB においては春休みを除いて、7月までで中学受験に必要な単元の発展的なものも含めた基本をほぼすべて扱います。

テキストは、算数強化ツール(の中の「応用」部分の前半)と、灘特訓テキストを使用し、それぞれ独立した動画があり、いずれも特に重要な問題を中心に一部の問題を扱っています。

学習法は共通しており、先に動画を一通り見て理解した上で、もう一度問題を解き直す…ということを繰り返していく方法と、動画で扱っている問題を確認して(動画においては、必ず問題を読み上げますので、その段階まで見て一旦動画を停めるというのもいいと思います)、一旦自力で問題に挑戦し、その後、動画を見た上で、ご自分がほぼ理解できていたと思われたら次の問題に進み、何らかの間違いがあつたり、正解したものの、新しい解法や知識などが展開されたりした場合は、解き直しをする(新しい解法で解いてみる)というステップを入れた上で、次の問題に進むという方法があります。

この、解き直す…という段階を経ることにより、実力が飛躍的に向上していきます。

理想としては、間違つたり、新しい発見があつたりした問題については、少し間を置いて(例えば、1週間、1ヶ月など)再度解き直しをするとより完璧になります。

あと、動画がない問題についても、余裕に合わせて取り組んでみてください。この場合は、付属の解答解説を参考に、間違つたところについては解き直しをすることをお奨めします。

算数強化ツール

◆第 11 回 (テキスト表記は 29 回…括弧内は以下同) 平面図形に関する問題

平面図形に関する色々な問題を扱います。特に、角度の問題が多くなっています。角度の問題においては、平行線によって角度が移るということや、多角形の内角の和や外角の和、正三角形など特殊な図形によってわかる角度、そして二等辺三角形の性質、図形を移動させる(合同の利用)等色々なことを利用します。わかる角度を図にどんどん書いていくということも重要になります。4は単純そうですが、意外に重要です。8のアイウエオカは実はすべて等しくなります。20の(3)は難問ですが良問です。24も重要です。学習対象問題は 1~24です。25~34は余裕があつたら取り組んでください。

◆第 12 回 (30 回) 平面図形の求積に関する問題

平面図形の求積を中心とした問題です。7, 17は定番の問題です。10は難しくないですが、正確にひもの図が書けるようにしましょう。16はどのように折つたのかを考えてみましょう。30もいい問題になります。学習対象問題は 1~19です。20~31は余裕があつたら取り組んでください。

◆第13回 (31回) 平面図形の移動に関する問題

図形の移動に関する問題となります。3(2)、4、6は定番の問題です。また9も重要です。10は知識として知っておいた方がいいでしょう。13、14、19、26なども再現性が高い問題です。学習対象問題は1～12です。13～29は余裕があったら取り組んでください。

◆第14回 (32回) 平面図形の面積比に関する問題

面積比に関する問題が中心となっています。4、11、12、14などが特徴的です。23なども再現性が高い問題です。学習対象問題は1～17です。18～29は余裕があったら取り組んでください。

灘特訓テキスト

◆第12回 平面図形Ⅲ

主に面積比に関する問題です。1、2、3は意外と苦手な人が多いようです。4、5、6、19は定番の問題です。

◆第13回 平面図形Ⅳ

面積比などに関する問題が多くなっていますが、主に相似が関係するものとなります。5はきちんと処理できるようにしておきましょう。13は定番の問題です。また、23～26は正六角形の問題ですが、入試でよく出題されるようになります。

◆第14回 平面図形Ⅴ

平面図形に関するまとめの回となります。角が等しいという条件の処理もいくつか出てきます。また、17～20は反射の問題になります。

◆第15回 速さⅠ

速さに関する問題です。3、5、6、7、14などは基本的ですが、しっかりマスターしておきましょう。3、11、16も良問です。

灘特訓テキストについても、動画で扱っていない問題も積極的に取り組んでみてください。